

光経済研究所株式会社

東京都中央区日本橋人形町 1-18-9 TEL 03(3669)2331(代)

証券投資顧問業登録関東財務局長第 557 号 日本証券投資顧問業協会会員 011-00557 号

平成 14 年 2 月 26 日号

ファンドマネージャー 出来岡 潔

<http://www.hikarikeizai.co.jp/>

前回(2月22日号のレポート参照)は右肩上がりの上昇トレンドを描いている銘柄は調整したとしても、基準線が下値の壁になることが多いということについてご説明しました。

では、今度は(1951)協和エクシオのチャートをご覧ください。典型的な下げ相場です。そして面白いことに下げ過程で何度かリバウンドがあるのですが、いずれも青色の線で頭をおさえられています。ここが基準線なのです。

もう一度ご説明しますと基準線とは、立合い日数過去 26 日間の高値と安値のちょうど中間値段のことです。たとえば 2 月 25 日時点とすると、直近の立合い日数過去 26 日間の高値は 750 円、安値は 626 円。このちょうど中間値段ですから 688 円。これがこの時点の基準線ということになります。

それ以前も全く同じ要領で、常に直近の立合い日数過去 26 日間の高値と安値の中間値段が基準線、それを一本の線で結ぶと下図の様なチャートになるわけです。

そこで今日のポイントは、右肩下がり下降トレンドを描いている銘柄は基準線が上値の壁になることが多い…。別の言葉で言うならば、右肩下がり下降トレンドを描いている銘柄は立合い日数過去 26 日間の高値と安値の中間値段程度までしか戻れないことが多い…。

(無料テレホンサービス) やさしいチャート教室 03-3669-5552



Alpha Chart 社製

このレポートは投資の判断となる情報の提供を目的としたものです。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願い致します。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。